

日本建築学会の活性化

会員から一般の人々にも魅力ある日本建築学会を目指して

日本建築学会会長 和田 章

2011年6月に日本建築学会の役員は、会長、三名の副会長と一名の監事を含め約半数が新メンバーに代わり、理事会などの活動が始まりました。

東日本大震災にかかわる調査復興支援活動は、佐藤滋前会長らが作られた方針と組織を引き継いでいます。来年3月には震災後1年を経て、この活動の総括と今後の方向性を議論するシンポジウムならびに国際会議を開催する予定です。これらのシンポジウムの企画、東日本大震災報告書の編纂など新たに進めることも多いため、組織を柔軟に変更しつつ活動の範囲を広げています。

学術推進委員会、学術レビュー委員会、社会ニーズ対応推進委員会、司法支援建築会議など、建築学会の多くの委員会活動は継続して進められています。

日本建築学会の活性化に向けて、円滑な法人改革と元気な学会活動、『建築雑誌』のスリム化、生き生きとしたホームページおよびニュースレター（メールサービス）、来館者にとって魅力ある建築会館への提案、委員会委員の新陳代謝、地方会員の委員会活動や情報交換を支援し活発にするためのホームページの活用、新しい賞の設立、新しい方法による会員の増強などにも取り組んでいます。

会員へのサービスとしては、多くの出版物、ホームページとニュースレター、建築会館を3本柱と考え、支部への配慮も含めてさらに充実していきます。『建築雑誌』『論文集』などには短くても英文要旨を掲載することにより、海外からも活動の見える日本建築学会にしたいと思えます。

ここでは、シンポジウムの計画、生き生きとしたホームページの制作、建築会館の喫茶店改修の3点について提案させていただきます。

シンポジウム

「東日本大震災からの教訓、これからの新しい国づくり」

東日本大震災はわが国が経験した最大級の地震災害であっただけでなく、津波による多くのまちの災害、原子

力発電所の災害を引き起こしました。このたびの大震災は、平野部の少ない国土における沿岸部のまちづくりのあり方、資源のない国におけるエネルギー問題と環境問題など、厳しい自然の猛威を受けるなか、日本人が今後日本という国土でどのように生活し、文化・文明を維持し発展させていくかという大きな課題を顕在化させる契機となりました。シンポジウムでは、地震によって引き起こされたさまざまな出来事がどのように起こったかを分析・総括するだけでなく、これからの新しい国づくりについて話し合う場を提供したいと考えています。会期は3月1日と2日とし、初日は建築会館ホールにて全体的な報告と議論を行い、2日目はテーマごとの発表と討論を行いたいと考えます。

かさねて、3月3日と4日には建築会館ホールにて、日本地震工学会、土木学会、地盤工学会、日本機械学会および日本地震学会との6学会の共催により国際シンポジウムを開催します。これらの活動を通じて、いまわれわれがどこにいるのか、どこへ行くべきかを議論し、これらを海外に発信していきたいと思えます。

ホームページとニュースレター

日本建築学会と34,201人（7月21日現在）の会員とのつながりは、日々の建築にかかわる仕事や研究を通して培われていることはもちろん、月に一度送られる『建築雑誌』が重要な役割を果たしています。これとともに15年ほど前からサービスの始まった日本建築学会のホームページ、10年ほど前から電子メールによって送られているニュー



スレーターの果たす役割が年々高まりつつあります。『建築雑誌』は会員に限って送られています。日本建築学会のホームページには会員、会員外の区別がほとんどなく、会員の特典があまり感じられません。『建築雑誌』にある情報伝達部分をホームページに移して雑誌をスリム化することにより、ホームページ制作の運営資金を捻出し、ホームページとニュースレターを充実したいと考えています。

まず、最新のインターネット技術を活用して、日本建築学会のホームページを階層化するとともに、会員と一般への情報発信の内容を分け、生き生きとしたホームページのサービスを開始します。会員の皆様には、メールアドレスとパスワードで会員モードの画面に入ってください、各種情報検索やダウンロード、各人の専門分野に合わせた出版やイベントのお知らせ、または参加票の発行など、よりきめ細やかなサービスを提供します。さらに、クレジットカードを用いた電子決済により講習会の申し込みや書籍の購入ができるようにします。また、会員割引などの特典も受けられるようにします。その他、インターネット経由で各種イベントのビデオ同時中継を行い、日本全国どこでも受講できるようにするなど、会員の利点を強めたいと考えています。ニュースレターの配信に関しても、各会員の専門分野に応じたより細やかなお知らせと、文中をクリックすることで欲しい情報を表示させる機能を追加します。これらのサービスは、2012年初めの導入開始を目標に進めていきます。

建築会館1階喫茶店を改修し「ブックカフェ」を開設

現在、建築会館1階に併設されている喫茶店「アゴラ」は、

1982年新設当時のままで使われ、現在は学会直営で維持されていますが、この収支は赤字の状況にあります。一方、2003年の建築博物館の開館に伴い、そのスペースの奥に設けられていた資料頒布所が廃止となったため、来館者に学会出版物の公知が難しくなっています。代替えとして会館の2階に設けられた頒布所は、書籍が受け付けカウンター背後の書棚に収められているため閲覧しにくく、利用者からも書店の復活を望む声が多く聞かれています。建築関係の書籍には、本会からの出版物だけでなく、書店では入手できないものや普遍的な価値を有するもの、また、人気のあるセミナー資料や大会のパネルディスカッションの資料などが多く含まれており、このような書籍を会員に広く紹介するためにも開架式の書棚は望まれるところです。

そこで来館者に魅力ある建築会館の運営方法の一つとして、建築会館1階の喫茶店を書店併設のカフェとして改修したいと考えています。書籍は日本建築学会出版物を中心として要望の多い建築専門書・雑誌類を開架書架で展示し、ここを訪れた会員が委員会までの間、お茶を飲んだり休憩しながら、歴史書から最新の出版物までを閲覧できるカフェにしたいと思います。同時に会員だけでなく、建築に興味のある一般の人々も気軽に立ち寄り、学会出版物や建築関連出版物を手にとって見ることができ、その場で購入できるようにしたいと思います。

将来的にこのカフェが建築の情報発信基地になれば、と願っています。

今後も日本建築学会の活性化に向けて、いろいろな提案をさせていただきたいと思いますので、ご理解とご支援をいただけるよう何卒よろしく願っています。